

尚円王生誕600年祭 プレイイベント第2弾

第2回 **伊是名郷友芸能公演**

伊是名村青少年等支援チャリティー



平井 毅作品集より尚円金丸像

日時 平成26年11月23日(日) 午後4時00分開場
午後4時30分開演

場所 浦添市てだこ大ホール 入場券 2,000円

主催 伊是名郷友芸能協会公演実行委員会

後援 伊是名村、伊是名村議会、伊是名村教育委員会、一般財団法人美ら島財団、伊是名村商工会、JAおきなわ伊是名支店、伊是名漁業協同組合、伊是名村建設業協会、伊是名村郷友会

清美の子はた



母の名は息子の

母はた

我はたわ

清美 嘉明 永年 謹言





10代校長 与儀喜明



忘れ難き教育者 与儀喜明先生のこと

与儀家は沖縄県首里市汀志良次町にあったが廃藩置県際、父喜宣氏の代に島尻郡高嶺に移り住む。喜明先生は、五人兄弟の中の三男で小学校の時は、妹の音子を背負って学校に通い、妹が泣き出すと教室の外に立って勉強した。それでも席順はいつも上席だったため父母の自慢の子だったと言う。十七才の時に師範の試験に見事合格する。喜明先生は、明治四十一年、師範三年生の時婚約する。

大正四年二十七才の時、奥さんと一緒に島尻郡伊是名尋常小学校に赴任する。県下で一番若い校長だった。当時、伊是名島は郡で一番就学率の低い学校だからその点努力するように、県庁の担当局から言い含められての赴任だった。就学猶予生が随分多かったため村長と相談し村中を回って入学を勧めたお陰で猶予生を全部入学させることに成功した。

喜明先生の授業は、五十音、漢字、唱歌は君か代、孝行口説、上り口説など郷土的な歌が多かった。その甲斐あって、畑仕事の時も自然に俗歌はやめて孝行口説などを歌うようになった。男生徒はソロバン、女生徒は裁縫などを教えた。父兄も自ら進んで進学させる様になった。

喜明先生の奥さんも共に伊是名尋常小学校に掛任したので、夫婦で村中を回って対応した。お陰で在職五年余りで他校と肩を並べる程に就学率が向上した。正月、七月には、村の婦人会を各字に結成させ裁縫を教えたため村民から大変喜ばれた。五年の任期を終え、島を去る時にあの琉歌を残している。

「御主の生りたる伊是名島ゆでむぬ 優りらななゆみわした童」

その意味を奥さんの喜久子先生は、「尚田王のお生まれになった伊平屋島ではないか。この由緒ある島に生を受けた貴方達はきつと優れた人になるでせう。しっかり励みなさい」と……

喜明先生は、大正九年伊是名尋常小学校から島尻郡真嘉比尋常小学校に転出しその後、大正十五年県庁勤めの後、昭和三年十月に再び校長として県下最大規模の那覇尋常高等小学校校長を拝命、順風満帆の五年間努め退職する。その後、体調を崩して昭和八年十一月二日残念ながら年四十八才の若さで黄泉の国へ旅立った。また、喜久子先生は昭和四十八年九月二日八十五才の生涯を終えました。後に見つかったメモに伊是名島では「全身全霊を込めた革命的な教育の実践に努めた」と書き残してあります。

伊是名島生まれの息子、喜誠氏は昭和四十八年の若夏国体・復帰記念国民体育大会、昭和六十二年の海邦国体・第四十二回国民体育大会の開催を仕切り中心的な役割を果たす。平成七年二月十七日七十九才で亡くなりました。喜明先生ご夫婦、喜誠先生ご夫婦のご冥福をお祈り致します。

御主御宗士一人

七十五の法祝え

大由ら有島也

勤勤共心

前田政義 承


十. ウレナガーイ (諸見区)

くに てい いりあがりわか
 1. 国やーちいるやしが 西 東 別ち ユーイヤネー
 ちなふい ゆる わちむか
 綱 引 ちゆる 夜や サー 我 肝 変わてい
 ※(囃子)ハイヤ センスル ウスルトゥネー イサー シ、シー

なはみち いしがち まくら
 2. 中 道 やむしる 石 垣 や 枕 ユーイヤネー
 ていん ゆあ
 天 やかさかてい サー さらに夜明かち
 ※囃子

とうし ふ あみ ちゅ
 3. ゆがふする 年 や 降る 雨 ん 美らさ ユーイヤネー
 ぐにちぐし やに
 五 日 越 たぼり サー 来 年 ぬゆがふ
 ※囃子

くキ みじ とう
 4. あぶし 越る 水 や うやぎりば 止 まい ユーイヤネー
 じゅうひちはちぐる とう
 十 七 八 頃 や サー 止 みやならん
 ※囃子

くとうし つく つ
 5. 今 年 む 作 いや あん美らさゆかてい ユーイヤネー
 くら ち あま まじ
 倉 に 積 ん 余 ち サー 真 積 ん さびら
 ※囃子

ゆー とうかぐ ゆあみ
 6. みるく 夜 ぬしるし 十 日 越 しぬ夜 雨 ユーイヤネー
 ぐにちぐ やに
 五 日 越 したぼり サー 来 年 ぬゆがふ
 ※囃子

ゆ く ゆく
 7. 寄てい来らば寄てい来 しんちゆらばしんき ユーイヤネー
 ゆ く な
 またん寄てい来らば サー とうやい投ぎら
 ※囃子

むら ふいる まち ぎ
 8. 村 ぬ 広 がいや 松 とうがじまる木 ユーイヤネー
 くに ふいる なしくわはんじょう
 国 ぬ 広 がいや サー 産 子 繁 昌
 ※囃子

わはむん をどう はなわらび
 9. 若 者 やすない 踊る 花 童 ユーイヤネー
 ますんじやますみ ゆゆ さかい
 真 潮 平 間 諸 見 ぬ サー 世 々 ぬ 栄
 ※囃子

なんじゃうーし たてい
 10. 黄 金 白 なかい ぐがにじく 立 てい ユーイヤネー
 ましるふい ゆち まぐみ
 真 白 引 ちさらす サー 雪 ぬ 真 米
 ※囃子

すい うとう ふくむらにしみ ちゅ まち
 11. 首 里 ね 音 ん じる 普 久 村 西 銘 ぬ 美 ら 松 ぐわー
 ユーイヤネー
 なふあ うとう くむじ
 那 覇 ね 音 ん じる サー 久 茂 地 ぬ 何ーイ が じまる 木
 ※囃子

どまいたかはし うとう
 12. 泊 高 橋 に ナンジャジフアー 落 ち ユーイヤネー
 いち ゆ あき
 何 時 が 夜 ぬ 明 てい サー とうめいさすら
 ※囃子

・ハドゥエイ サーエンサ ハドゥエイ サーエンサ
 ハドゥエイ サーエンサ ハドゥエイ サーエンサ

・ふまぬ あんまが ワラン とうらへる

うんなん はかちやる
 ふまぬ 稲 や ゲー マ なりなり
 ふまぬ 稲 や ゲー マ なりなり

平成 25 年 8 月 1 日 (旧 6 月 25 日) 諸見ぬウレナガーイ & スナイ



字諸見のテイルクグチ

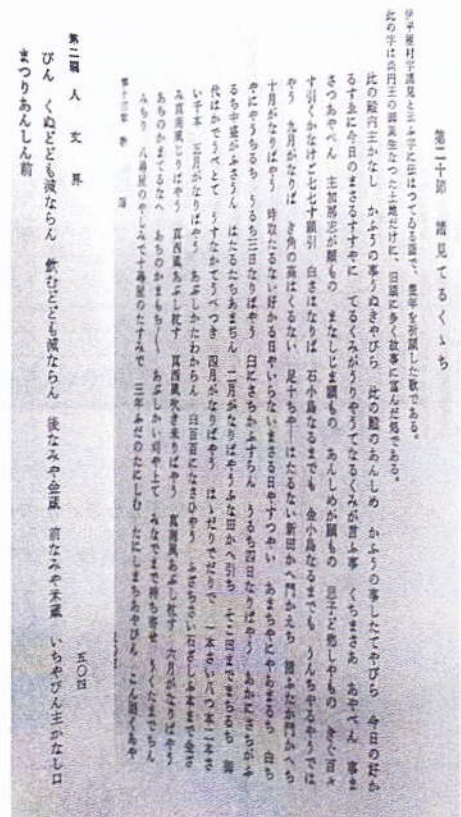
□テイルクグチの資料について

第1回公演プログラムの29頁～30頁に、字諸見のテイルクグチの口承記録の写本資料(1)(2)(3)(4)を収録しておきました。その後、島尻郡誌(昭和12年7月15日発行)の503頁～504頁にも(下の写真コピー)収録されていることが分かりました。今のところ、最も古い資料と思われるので、整理番号を附して誦いやすいように写本して掲載します。これで、5編の写本記録となりました。言葉や順序などを比較検討整理し、舞台化(10分以内)できるように構成したいものです。

(5) 1937年(S.12年)7月15日発行の島尻郡誌より写本

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 此の殿内主かなし | 36 中盛がふさうん |
| 2 かふうの事うぬきやびら | 37 はたるたちあまぢん |
| 3 此の殿のあんしめ | 38 二月がなりばやう |
| 4 かふうの事したてやびら | 39 ふな田かへ引ち |
| 5 今日の好かるすゑに | 40 そこ田までまぢるち |
| 6 今日のまさるすすやに | 41 御代はかでうべとて |
| 7 てるくみがうりやうて | 42 うすなかてうべつき |
| 8 なるくみが言う事 | 43 四月がなりばやう |
| 9 くちまさああやびん | 44 はゞだりでだりで |
| 10 事まささつあやべん | 45 一本さい八つ本 |
| 11 主加那志が願もの | 46 二本さい千本 |
| 12 まなしじま願もの | 47 五月がなりばやう |
| 13 あんしめが願もの | 48 あぶしかたわからん |
| 14 思子ど慾しやもの | 49 白百百になさひよう |
| 15 きぐ百々す引く | 50 ふざちさい石ざしふ本まで |
| 16 かなげ七七す願引 | 51 金ざみ真南風じりばやう |
| 17 白さはなりば | 52 真西風あぶし枕す |
| 18 石小島なるまでも | 53 真西風吹き来りばやう |
| 19 金小島なるまでも | 54 真南風あぶし枕す |
| 20 うんちやるやうではやう | 55 六月がなりばやう |
| 21 九月がなりば | 56 あちのかまてるなへ |
| 22 き角の高はくらない | 57 あちのかまもちもち |
| 23 足十ちや一はたるない | 58 あぶしかい刈や上て |
| 24 新田かへ門かえち | 59 みなでまで持ち寄せ |
| 25 諸ふたか門かへち | 60 うくたまでちんみちり |
| 26 十月がなりばやう | 61 八尋屋のやしみで |
| 27 時取たるない | 62 十尋屋のたすみで |
| 28 好かる日やいらぬ | 63 三年ふだのたにしむ |
| 29 まさる日やすつやい | 64 たにしまちあやびん |
| 30 あまちやにやあまるち | 65 こん酒くあやびん |
| 31 白ちやにやうちるち | 66 くぬども減ならん |
| 32 うるち三日なりばやう | 67 飲むども減ならん |
| 33 白にさちかふすらん | 68 後なみや金蔵 |
| 34 うるち四日なりばやう | 69 前なみや米蔵 |
| 35 あかにさちがふるち | 70 いちやびん主かなし |
| | 71 口まつりあんしん前 |

写真コピー



前掲のテイルクグチ資料

- (1) 西賢祐レポート 郷土史 ～伊是名島～ 16頁「照國口説」1950年2月
- (2) ① 中本弘芳編 伊是名村誌 280頁「字諸見のテイルク」1966年12月
② 仲田清英編著 伊平屋列島文化誌 1227頁「(字諸見のテイルク)」1974年6月
・①②は、内容が同一
- (3) 杉本信夫1971年調査採譜「諸見のているぐち」沖縄の神歌 沖縄の神歌伝承活動(V) 沖縄本島・周辺離島 98頁沖縄県教育委員会
- (4) 伊是名村史 下巻 島の民俗と生活 481頁「字諸見テイルクグチ」伊是名村史編集委員会 1989年3月

(資料写本記録: 西 昇)

1415~2015(600歳)

尚円王生誕600年祭

式典イベント：2015年8月14日~16日

「いぜな尚円王まつり」に開催

尚円王生誕600年祭イベント（案）期間：平成27年1月~12月

- ・尚円王乗馬銅像建立除幕式（尚円王通水節公園開園）
- ・銘苅家等の秘藏品（民俗館資料）首里城展示（案）
- ・史劇 尚円王~松金がゆく~ 西原町さわふじホール2回公演（3月22日）
- ・公事清明祭（ツアー受入）サムレー道行列（案）（4月3日）
- ・やんばる駅伝伊是名島大会（5月）
- ・銘苅家等の秘藏品（民俗館資料）首里城展示（案）
- ・フェリー就航記念祝賀会（7月）
- ・いぜな尚円王まつり 600年祭 メインイベント 式典8月14日~16日
- ・尚家秘藏品村内展示（案）
- ・西原町新作組踊 天使金丸 伊是名公演（予定）
- ・トライアスロン大会（11月1日）
- ・史曲 尚円（普久原恒勇）首里城（予定）
- ・その他計画中



尚円王

伊是名村

村長 前田政義

教育長 仲田允碩

議長 前川 清